

令和5年度第2回川崎市公共施設マネジメント推進委員会（議事録）

1 開催日時 令和6年1月26日（金）午後2時00分～午後3時45分

2 開催場所 本庁舎8階総務企画局会議室1

※対面及びWEB会議のハイブリット形式にて開催

3 出席者

出席委員

朴 委員、山口 委員（対面出席）

李 会長、伊藤 委員、稲生 委員、村尾 委員（WEB出席）

市側出席者

樋口 総務企画局公共施設総合調整室長

佐藤 総務企画局公共施設総合調整室担当課長

中村 総務企画局都市政策部企画調整課担当課長

藤原 総務企画局行政改革マネジメント推進室担当課長

（※爲房担当係長が代理出席）

秋廣 財政局財政部財政課担当課長

水嶋 財政局資産管理部資産運用課長

事務局

総務企画局公共施設総合調整室 各職員

4 議題（公開）

地域ごとの資産保有の最適化について

（1）第1回ワークショップの報告と第2回ワークショップの開催内容について

（2）施設分析の進め方について

5 傍聴人数 1人

6 会議内容（※『太字』は次第における各項目）

『開会』

—事務局より、令和5年度第2回川崎市公共施設マネジメント推進委員会の開催を宣言—

—開会挨拶（樋口 総務企画局公共施設総合調整室長）

—事務局より、事務連絡—

『2 公共施設白書の分析についての報告』

【李会長】

それでは、次第に従いまして進めさせていただきたいと思いますが、稲生委員が途中参加になりますので、今日の進行は、順番を変えて、先に次第2の報告、公共施設白書の分

析について事務局のほうから説明をお願いして、その後、議題のほうに移りたいと思いますが、委員の皆様、いかがでしょうか。

— 異議なし —

ありがとうございます。

それでは、次第2報告、公共施設白書の分析について、事務局のほうから、資料4について説明をお願いします。

(資料4について事務局から説明)

【李会長】

それでは、今の公共施設白書の報告について、委員の皆さんから御意見をいただければと思います。御意見のある方、挙手をお願いします。

いかがですか。

これは、川崎市の公共施設白書の、前回の第1回委員会での意見を反映して、調整した内容になります。ですので、この内容について皆さんから感想や意見、あるいは、表現の仕方とかあればお願いします。

【村尾委員】

あまりよく分かっていないのですが、白書というのは、データとかの事実みたいなものを説明するような文章ですよ。

【事務局】

村尾委員のおっしゃるとおり、白書につきましては、まず、施設の面積ですとか、築年数ですとか、利用者数など、そういった状況をデータとして一覧のような形でまとめております。

【村尾委員】

率直に思ったのは、グラフなどがふんだんに使われていますが、そこから問題点とかみたいなのを読み取るのは結構難しいなという部分があるので、そういうところを白書で明示する、例えば、こういうところが課題ですとか、問題点ですというようなことは書いたりするというのはあるのですか。

【事務局】

今回の白書分析は、基礎的なデータを皆さんに御覧いただくというのが一つの目的でございまして、そのデータから読み取れる客観的な事実について、少し詳しく解説を加えたような形の作りになっております。課題のところまでは、現状踏み込めていないような形になっております。

【村尾委員】

白書分析を読んだ人が、グラフのデータを見て、個々でこういうのが課題なんだなというようなものを、自分で考えるという形ですか。

【事務局】

そのような課題認識などを、御覧いただいた方にも持っていただければというような認識でございます。

【村尾委員】

分かりました。はい、ありがとうございます。

【李会長】

他はいかがでしょうか。
山口委員、お願いします。

【山口委員】

公共施設白書について、特に概要版ですけれども、どのように市民の方にお伝えする形を取るのでしょうか。紙というのは、なかなかコストがかかってしまうので、少なくとも概要書を皆さんにお届けする方法については、いろいろ考えられるかと思いますが。

【事務局】

ありがとうございます。公共施設白書につきましては、川崎市のホームページ上で公開しておりますので、概要版につきましても同様にホームページ上に掲載を予定しています。また、分析編のほうも公開させていただきまして、幅広く市民の方に御覧いただければというように考えております。

【山口委員】

ありがとうございます。

【李会長】

他はいかがでしょうか。朴委員、何か意見がありそうな感じですが、いかがですか。率直な感想でいいと思いますので。

【朴委員】

延べ床面積は、全体概要をつかむには必要なのだろうと思うのですが、何かちょっと違和感があるなと思ったのは、公共の施設と言われて、大抵一般の方は、自分が使っているものを思い浮かべるものです。その思い浮かべるものというのは、例えば、スポーツ施設をよく使う方は、グラウンドだとか、屋内であればテニスコートなどが多いと思いますが、図書館ばかり使う人は、図書館の建物とか本の総量などを思い浮かべると思うので、そういうときに、スポーツ施設と図書館が横並びに比べられているという感じが、少し違和感があって、他に何かいい指標があるのかなという感じを

受けるのですが、そういうのは、これから先、何か出てくるのですか。

【事務局】

確かに施設で、今の大分類、中分類といろいろ分けさせていただいているのですが、例えば福祉施設ですと、職員がある程度の人数おり、運営する側の人のスペースも必要だとか、そういう施設と、スポーツをする体育館やアリーナ等の場所などとの単純な比較というのは、本来一步先の検討を進めるに当たっては、少し違うかなという気はするので、今後、やはり類似施設というか、同じ分類の中で、場所の違い、コストがどれぐらいかかっているとか、あるいは、老朽度合いがどう違うかというのは、少し深掘りをしておく必要があると思います。

また、その機能という面で、全く違う建物だけど、同じような用途で使っているというような建物もございます。そういった点については、現在地域ごとの資産保有の最適化の検討を実施しており、施設を機能ごとに見ていこうというところがございます。例えば、ホールの在り方とかはちょっと別枠で出していたりするのですが、ホール機能という横串で比べる。全く違う建物に類似の設備とか機材とかが置いてあるホールという機能を横串で見るといって、そういう取組はやっているというところです。

比較の仕方は、やはり委員がおっしゃるとおり、本来は単純というわけにはいかなかなとは思っています。これは、データから伺い知れるところというところでまとめています。

【李会長】

伊藤委員、何かあれば。

【伊藤委員】

この公共施設白書自体の性質というのは、川崎市の公共施設の現状をデータで示すということだと思います。一応分析編と概要版というのが今回つけられているのですが、これにむしろ要約をしているということなので、これ自体は、意味があることだと思うのですが、この施設白書を活用して川崎市資産マネジメント第3期実施方針に基づく地域ごと、機能ごとの資産保有の最適化推進というようなことですか、本市公共施設の状況を市民に広く知っていただくことという位置づけがなされているのですけれども、少なくとも、今我々が検討している公共施設の在り方に関するいろいろな問題ですとか、あるいは地域ごとの利用実態を含めた将来的な展望の問題について、課題を抽出するには、もう一段詳しい分析が必要なのかなという気はします。

例えば、築30年以上の施設が多くなっているということは分かるのですが、では、具体的にそれを更新しないと、どういう課題が出てくるかとか、あるいは地域において、どれぐらい分布があるのかということは、これからの検討の中で示していかなければいけないということなので、そこを何かもう一段つなぐ、その市民に対して分かりやすく示せる資料というのが、あるのかないのかというのは考えなければいけないかなと思っています。

本来であれば、分析編は、もう少し深い分析をするということもあり得るのですが、恐らく今回はそこまでいっていないというところなのかなという気がしています。

【李会長】

ありがとうございます。

事務局のほうから、この伊藤委員の意見について、何か御意見とかはありますでしょうか。

【事務局】

伊藤委員がおっしゃるように、築30年以上経過したものの数が、これからどんどん増えていくということで、そういった課題に対してどのような取組をしていかなければいけないですか、また、分布等についても、すぐには、資料としてお出しすることというのは、なかなか難しいところではあるのですが、白書の分析のほうも、今後さらにバージョンアップ等をしていければなというふうに考えておりますので、内容につきましては、次回以降、検討させていただければというふうに考えております。

【李会長】

今、委員の皆さんからすごく重要な視点からの話が幾つかあったと思います。

伊藤委員がおっしゃるように、分析編は、今現在は過去3年分の単純比較を載せているので、過去3年間でどう変わったとか、そういうことは見られるのですが、分析というのは、何かしらのアイデアが出れば、そのアイデアを基にして違う分析をして載せたりすると、違うことが見えたりするんですね。ですので、この分析編が、これから継続的發展をするような形になればいいかなと思います。

あと、概要版ですけど、私がなぜ先ほど朴委員に意見を求めたかという、概要版は、一般市民の方々が、この白書の中で一番目が行くところですので、今、川崎市さんで作ったもの、これは、作った側、つまり作成する側の視点が入った概要版になるわけですね。

だから、内容を知っている、グラフの作り方を知っている方々の視点ですので、朴委員のように、市民目線からはこれがどう見えるか。やっぱりその視点はすごく大事で、これを見てもピンとこない可能性があります。ですので、概要版は、その市民からどのようなことが気になるのか、どのような形で見せたら一発で分かるのか、そういうことを確認して、今後市民が一番理解しやすい形で、市民の視点から作ることが望ましいかなというふうに思います。

ありがとうございます。

【事務局】

本日欠席しております倉斗委員のほうから御意見をいただいておりますので、御紹介してもよろしいでしょうか。

先ほどコストの状況というものがございましたが、例えば競輪施設のコストがとても大きく見えるということになっておりますが、競輪施設につきましては、収入もある施設だと思えます。

課題となるのは、収入がないような施設をどうするかということになるのではないかと。

赤字施設なのかそうではないのか、ジャッジがしにくい。単純に捉えると、競輪施設はコストがたくさんかかっているように見えるので、収入があるということは書いてもいいという御意見がございました。

これにつきましては、倉斗委員の意見を参考にさせていただきますして、分析編の中で、そのような収入がある施設もあるよというような記載を追加したいというふうに考えております。

また、概要版につきましては、先ほど山口委員からもありましたように、資料のほうは、ホームページで掲載する予定でございますので、それであれば、関連するホームページに飛べるようにリンクを貼っておくと、より内容の濃いものになるという御意見をいただきましたので、こちらのほうも検討したいというふうに考えております。ありがとうございます。

『1 地域ごとの資産保有の最適化について（1）第1回ワークショップの報告と第2回ワークショップの開催内容について』

【李会長】 それでは、次の段階に行きたいと思えますけど、次は議題1に戻ります。地域ごとの資産保有の最適化のうち、（1）第1回ワークショップの報告と第2回ワークショップの開催内容についてとなっております。

進行としては、最初、事務局のほうから、資料1及び資料2について説明してもらい、その後、それに対する皆さんの御意見の時間を設ける、そういう流れで進めていきたいと思えます。

それでは、事務局のほうから説明をお願いします。

（資料1、資料2について事務局から説明）

【事務局】

議題（1）について倉斗委員からいただいた御意見ですが、魅力的な地域を出すことはよいと思う。さらに魅力的だと感じるのはなぜかという根本的な部分を深掘りしていくと、意見が拡散したときに根っこが幾つかまとまってきて、軸となる考え方が定まるのではという御意見をいただきました。

また、ペルソナの立て方についてですが、その地域の特徴である人口動態や産業構造など、地域の特徴を生かしたペルソナがあるとよいという御意見をいただきましたので、こちらについても検討させていただきたいというふうに考えております。

【李会長】

それでは、委員の皆さんから御意見などをいただければと思えます。御意見のある方は、挙手をお願いします。

今、議題1のワークショップの報告と、第2回ワークショップの開催内容についての御報告がありました。これについて、委員の皆さん、いかがでしょうか。

伊藤委員、お願いします。

【伊藤委員】

先ほど、倉斗委員の御意見でも紹介されていたと思うのですが、この第2回のワークショップを開催するに際して、どういう人を想定するかというペルソナを想定するというようなお話がありました。

これは、普通に考えるとその施設を使うような人とか、施設に対するニーズがある人というのを想定すると思うのですが、やはり大多数の方は、実は公共施設をあまり使ったことがないとか、あまり使う必要がないという方がいて、そういう方がどういうふうに関わるかというの、これからいろいろ課題になってくると思います。その辺はもう少し幅広く、このペルソナを設定するというのも含めて考えていただければと思います。

もちろんワークショップが複雑になり過ぎると、あまり興味を失ってしまう可能性があるのですが、実態として、あまり特定の層に偏らないような形での配慮というのは必要ではないかと思っております。

以上です。

【李会長】

ありがとうございます。

事務局のほうから何かありますか。

【事務局】

ペルソナのことでございますけれども、すみません、今こちらの資料では2種類しか示していないのですが、実際には、今20から30種類ぐらいのペルソナを作ろうかなと思っております。その中には当然世代も幅広く、小学生から、例えばもう高齢者の方、幅広い世代を設けるといふのと、あと設定も、公共施設を使っている人ですとか、使っていない人ですとか、バランスがよくなるような形で、ペルソナを作りたいなと思っております。

あと、先ほど紹介できなかったのですが、ペルソナを1から作りたいという方も多分いらっしゃるかなと思っております。実際、こちらは無作為の方、第1回のワークショップの様子を伺っていますと、結構やっぱり使っていないという方が結構いらっしゃるのと、そうすると1から作ると多分使っていない人目線で作られたりするのかなというの、思っております。一定うちどもから、使っていない人というペルソナを設定するのと、あと1からペルソナを設定すると、使っていない人目線でのペルソナが出てくるところで、使っていない目線の人たち目線の思いを、少しカバーしたような形でワークショップを進められればなと思っております。

以上です。

【李会長】

他の委員、いかがでしょうか。

山口委員、お願いします。

【山口委員】

ペルソナの選択について教えていただきたいのですが、参加者の方は、自分をモデルに考えるのではなくて、与えられたペルソナの中で選んでいくという形になるのでしょうか。

せっかく10代から70代までいらっしゃるのです、その人たちをベースに、自分が想像できる範囲でペルソナを選ぶという、そういうイメージでよろしいですか。

【事務局】

基本的には、自分で自分に近い人を選ぶということになると、偏りが出る可能性があるかなというふうに考えておまして、やっぱり一定年代にばらつきが出るような形で、ファシリテーターがテーブルにおりますので、この年代の方はどうですかというような形で、少し投げかけをしていきながら、ペルソナを選んでもらうような形がいいのかなというふうに考えております。

その中でも、やはり自分がこうしたいという方も多分いらっしゃると思うので、そこは、その方の思いを尊重した上で、ペルソナを年代の偏りが少ないような形で設定できればというふうに思っております。

【山口委員】

それなら分かりました。

【李会長】

他の委員、いかがでしょうか。意見はありますか。

朴委員、お願いします。

【朴委員】

私は、川崎区ワークショップの第1回目にオブザーバーとして出させていただいて、正直あまり期待をしていなかったというか、何をやるんだろうなという気持ちが非常に強くて、その中でゲームをやるとか言っていたのを聞いて、何だか白けるのかなと非常に強く思っていたのですが、予想外に面白くて、参加されている方も面白そうだったけど、見ているほうも、非常に細部に至るまで、大変面白く、参加者アンケートを読ませていただいても、参加者は多分そういうふう感じたのだらうなと非常に強く思いました。

残念ながらちょっと欠席の方も多かったのですが、人の構成が偏っているなという感じを少し受けましたけども、それを除けば、若い方から年寄りの方がいらっしゃったら、実にグループの中で意見がぶつかり合って、楽しそうにやっていました。驚くほどに、いろんな意見が出て、なるほどと、こっちも考えさせられるほどに面白そうな感じがありました。

それを踏まえると、第2回、第3回と期待を持っています。多様な感じで意見を出せ

ることは非常にいいと思いますので、事務局とか、市側が積極的に関与するのは、もうそれはワークショップをどういう感じで納めるということを考えるのは当たり前のことですが、いろんな方がいろんな意見を出されるということは、非常にいいことだと私は個人的に思っているのですが、最終的には結論がまとまらなかったというような形になってもよいくらい、参加者も増やしていただきたいし、いろんな意見を吸い上げていただいてももらいたいというのが希望的観測であります。頑張ってください。

【事務局】

今、委員から御意見をいただきまして、恐らく参加者も4区合計ですと、それなりの数になりますので、本当にいろんな多種多様な意見が第1回でも出ましたし、これからも出てくると思っていて、事務局としては、何かを時間がないからまとめなきゃいけないとかということよりも、やはり今委員がおっしゃっていたように、いろんな意見を出していただいて、時間の限りはあるので、資料にも書かせていただいたのですが、ある程度のキーワードというか、くくりのようなところは整理という意味でやりたいと思っていますが、何か強引に結論づけるとか、そういった会でもないですし、参加者の方からも、今まで公共施設の整備は、あまり行政側が市民の方の声を聴くというような機会が少なかったというような話を言っている方もいらっしゃったので、こういう市民の方と意見交換をするという場の設定が一つ重要なのかなと思っていますので、最終的には、少しキーワードに沿った形で整理は行いますが、いろんな方の意見を出していただきたいというふうに運営していきたいと思っています。

以上です。

【李会長】

村尾委員、お願いします。

【村尾委員】

カワタンのゲームで、個人的に気になっていたのが、すごく多世代の方がこの行政の取組に来てくれたということで、世代によって地域に対する考え方がどう違うのか、それとも一緒なのかというのは、個人的には気になっていたのですけども、そういうところは、例えば10代と70代とかで違いがあったり、意外と一緒だったりとか、そういうところは、どうだったのでしょうか。

【事務局】

事務局で把握しているというところで言いますと、10代の若い方は、結構地域の公共施設を知らないという方が結構多かったということでございます。知らないとか、場所がどこにあるか分からないということで、あまり普段公共施設に触れていないからかもしれないのですが、地域の中における公共施設の位置づけというか、そういうところにあまり認識がないという方が多いのかなというふうに感じております。

高齢者の方は、一方でそういうわけではないという状況です。今の村尾委員の御意見から少し外れるかもしれませんが、世代で共通しているのは、日頃施設を使う、日常で

使わないという方は多かったということです。違いとしては、施設を知っている、知らないということ、その違いが大きかったのだらうと考えております。
以上です。

【村尾委員】

では、70代とかでも結構公共施設を知らなかったり、使っていなかったりする方が多かったということですか。

【事務局】

いいえ、そこまではないのですが、やはり若い方が、非常に使っていないという方が多かったというところまで、そこはやはり顕著に出ておったというところで、高齢者の方でも一部いらっしゃることはいらっしゃるのですが、10代に比べるとその割合が少ないというところがございます。

【朴委員】

すみません、いいですか。

【李会長】

はい、朴委員、どうぞ。

【朴委員】

すみません、川崎区だけで偏った感想になるかもしれません。私は、ゲームをやっているところを見させていただいたときに、非常に強く感じたのは、お年を召した方は、やはりコンサバティブな考え方が多いと思うので、最終的に施設をどうするというところでやっていくと、何か積み重ねていって良くしようという考え方を出してくるのですが、あのゲームでよくできているなど思ったのは、そのことをやっている、最終的にやっぱり破綻するのですね。いろんな意味で破産するとか、施設が全然使われなくなってしまうとか、若い人はそっぽを向いてしまう。

その中で、若い人が急に意見を出すと、ああ、なるほどと、くるっと方向転換すると、いきなりその施設が生き返るというような感じがちょっと見えるというのも、やっているグループの中でばらばら見えて、ああ、面白いなどは思いました。

ただ、現実でそれがどれぐらいフィードバックされるかはこれからだと思うのですが、現状というか、これからを考えてみないとアウトだよという認識にさせてくれるという意味では、非常によくできているなどは感じました。

以上です。

【李会長】

ありがとうございます。

朴委員にお聞きしたいのですが、どこの区のワークショップにオブザーバーとして行かれたのですか。

【朴委員】

私は、川崎区の第1回です。

【李会長】

川崎ですか。なるほど。

朴委員がすごく否定的な発想から直接体験して、あんなに前向きになったことは、この棒グラフの結果データからも読み取れるのですが、結構いい方法で、よくできたワークショップだったのではないかなというふうに感じます。

皆さんの意見の中でも出たように、この公共施設をさらに積極的に利活用できるように、市民の方もずっとたくさん使えるようにするためには、以前からも申し上げているのですが、10代、20代の世代が、もう少し積極的に使うようになることが鍵だと思っています。

その部分で、このワークショップに、麻生区と川崎区の10代が入っている。これはなかなかないことで、この10代の市民の意見を聴く機会はなかなか無いですから、これはすごくよかったなというふうに感じております。

あと、その次のページに、楽しかったとか、理解できたとか、前向きな部分が結構全体的に多い割合を示しているのですが、私の今までの経験上の考え方からすると、100点近くではない限り、特にアンケート調査でそのようには答えないのですね。ですから、ここに結構な割合で出てきているということは、参加した方々が結構いい体験ができたんじゃないかというふうに思います。

さらに幸区では、半分ぐらい「とてもそう思う」という回答ですけど、進め方が違ったりとか、全体的に盛り上がりたりとか、そういうことはあったかもしれないですけど、事務局は、直接やってみた感覚としてはいかがですか。

【事務局】

私は幸区に参加はしておらず、他の3区には顔を出したところですが、盛り上がりという意味では、4区で共通してアンケート結果にも出ているように、ゲームということもございまして、活発に意見交換していただいたというところで、幸区は、委員長のほうからも、今コメントをいただいて、改めて何か印象があったかなというところですけど、年代別のグラフを改めて見てみますと、若干ですが、幸区が40代までの人数が一番多い。20代が1で、30代が5、40代7ということで、人数だけ見ると40代までの人数が他の3区よりもやや多いかなというところで、比較的若い世代の方を中心に、意見をいろいろ出していただけたことが影響しているのかなと推察しています。

【李会長】

この後のワークショップもありますので、このアンケート結果の「楽しい体験ができた」とか、「よく理解できた」という前向きな感覚を持つようになったこの10代の人たち、次、2回、3回のワークショップにも、例えば友達に意外と面白いよというように直接声をかけて、10代の方々が参加して自分の意見を出せるような、そのような働き

かけをすると、もっと2回目、3回目のつながりができるのではないかなというふうに感じております。これは、私の感想です。お疲れさまでした。

それでは、続きまして、(2)施設分析の進め方について、事務局のほうから資料3について説明をお願いします。

『1 地域ごとの資産保有の最適化について (2) 施設分析の進め方について』

(資料3について事務局から説明)

【事務局】

倉斗委員からいただいた御意見を、紹介させていただければと思います。

倉斗委員からいただいた御意見といたしまして、機能を単に部屋の名前からイメージする会議とかではなく、スポーツといった具体的な活動をベースとして分析するのはいいといった御意見をいただきました。

一方で、部屋ではなくても、空間でよいものもあるというものが、御意見としてありました。例えば、一人で過ごしたいというときに、ラウンジのように予約が不要な場所というところでよいのではないかと、市民の皆さんが気軽に使えるような、そういった視点というのも必要なのではないかと御意見をいただきました。

続きまして、稼働率のところですが、実際には、予約状況で見る人が多いかと思うのですが、実際に予約の枠を見た場合に施設によってではございますが、午前、午後、夜間などといったかなり大まかな予約で把握しているようなケースがあります。ただ、実際に使われている時間は、その中の1時間だったりするところがあります。

他都市の事例も紹介していただきまして、やはり1時間単位での利用状況とか、細かいところで見ることによって、かなり精度の高い稼働率というものも見えるのではないかと御意見をいただきました。

また、実際の活動と、何時間使うか、部屋を何に使うかといった行動パターンについて、全体の施設について調査するのは難しいかと思うのですが、サンプルでそういった施設を調査してみるのもいいのではないかと御意見をいただきましたので、ぜひ今後の施設分析のところに、こういった御意見を参考にさせていただければと思っております。

説明は以上でございます。

【李会長】

それでは、委員の皆さんから御意見をいただきたいと思います。御意見のある方は、挙手をお願いします。

稲生委員、お願いします。

【稲生委員】

利用施設の利用者のニーズ、それから、各公共施設の利用目的ということも、面積みたいなものを算出して、ミスマッチを図っていくという、こういうやり方はなかなか面

白いなと思っております。

一方で、現在利用している方の利用のニーズというのを割合で図っているわけですね。そうすると、割合を実際の面積に置き換えていくときに、倉斗委員がおっしゃるように、予約なしのこういうスペースがあればいいといった場合に具体的に置き換えるときに、やはり入れたいというようなものを、どういうふうに設定をしていくのかというのが、この分析の意味があるかの、恐らく分岐点なんじゃないのかなと思います。

つまり何が言いたいかというと、利用目的ごとに、想定をされる所要面積みたいなものというのは、結構ばらつきがあるのではないのかなということ、事務局には、いろんなパターンを想定して、ある程度は、倉斗委員がおっしゃっているような抽象化していくには、全部やるのではなくて一部の代表的な施設で、シミュレーションしてみるということで、私もよろしいのではないかなと、こういうふうに思っている次第です。これが1点目です。

それから、2点目ですけれども、これは、事前の御説明のときにも申し上げたのですが、今回のやり方が、現にその施設を利用している方のニーズを置き換えていくというやり方をしているのですが、先ほどの議論にも挙げたように、潜在的なニーズ、つまりまだ使っていない方、あるいはあまり使いたいと思う施設がないからというようなことで、公共施設をあまり使っていないような方のニーズをどういうふうに設定するのかというのが、やっぱり大事じゃないかなと思います。そうしないと、ミスマッチが、利用している方と実際の使われている面積という部分にだけしか抽出されていないので、本当の意味でのミスマッチの測定できたことにはならないというふうに考えます。

ですから、ここら辺は、アンケートを使うとか、また違うやり方を合わせ技として使っていく必要が出てくるかなと、こういうふうに思った次第です。

以上でございます。ありがとうございます。

【李会長】

ありがとうございます。事務局のほう、いかがでしょうか。

【事務局】

一つ目の御質問でございますが、今回私どものほうも資料としてまとめさせていただきましたが、実際のここの割合というものは、どのように図っていくのかというところにつきましては、やはり客観的なものが必要なかなと現状は考えているところでございます。

実際には、いただきましたアンケート調査の数によって、ニーズというものを割合で取ろうかと思うのですが、その人のサービスに対する思いというものもまた違ってくるというところもあるかと思っております。一律には図れないところはあるのではないかと考えておりますので、今回は面積というところで、一定示させていただいております。一つの考えとして、まずは整理を行いまして、その後プラスで調査をする必要があるものというものを整理していく必要があるのではないかと考えております。

委員がおっしゃっていたような分岐点机上の空論で終わってしまうのではないかと、いうところも懸念しているところでございますので、そういった御意見を今後もいただ

ければと思っております。

ですので、倉斗委員もおっしゃっていた、シミュレーションというものを取ることが必要なのかなと思いますので、来年度以降のところで、そういったシミュレーションというものも検討していきたいと考えております。

二つ目につきまして、今回の調査はあくまで利用者の方からいただく御意見に基づいて、機能を見える化するというようなところではないかと思っております。

ただ、仮に一定程度整理できたその機能というものを、今後生かしていくとした場合には、やはり大半の方が利用していないという現状がございますので、そういった方々の潜在的なニーズを把握するためにも、無作為抽出といったアンケート等の手法が、委員のおっしゃるとおり有効なのではないかと考えておりますので、そういったことも今後検討していきたいなと考えております。

以上でございます。

【稲生委員】

ありがとうございました。

【李会長】

他の委員、いかがでしょうか。

伊藤委員、お願いします。

【伊藤委員】

今の稲生委員の御質問とほぼ同じ感想を持っているのですけれども、これも私の事前に説明のときにも申し上げましたけれど、結局今の進め方ですと、床面積というものが一つの手法になっているわけです。

例えば、最初の（２）の〇〇こども文化センターの例のところの赤字のところ、大分類、割合構成が５０％に対して、集会率は２０％。これは足りていないという評価をしているのですけれども、本当に足りていないかどうかというのがよく分からないわけですね。これは、全ての活動に必要な１人当たりの床面積が全く同じであるということを想定すると、足りていないということは言えるんですけれども、恐らくそうじゃないわけです。

そうすると、３０％なら足りていると言えるのか、これを５０％にするというのは公的にはあまり意味がないと思います。あまり数値としては関係ないので、どこまでいくと足りていないという評価ができるのかというのが実は分からないです。

これをある程度の施設間の比較をして、それによって足りている、足りていないということが多分言えると思うのですが、この数値が独り歩きするというのは、非常に怖いところがありますので、これは、もうあくまで目安であって、その他の要素を入れ込まないと、きちんとした分析はできないのだということを前提に議論する必要があるのではないかと思います。

これも、次の例でも１８．８％というのは、これは余っているという評価ですけど、余っているか、余っていないかというのも分からないので、ここはちょっとあまり数値を出して独り歩きをするのは、個人的には怖いことかなというふうに思っておりますので、

注意していただきたいなと思います。
以上です。

【李会長】

ありがとうございます。事務局のほう、いかがでしょうか。

【事務局】

数字が独り歩きするのは怖いということで、非常に大事な御意見をいただきまして、ありがとうございます。

一つの仮説として出したというところはあるのですが、やはり行政側ですので、示し方によっては、数字が独り歩きしてしまうという可能性もあるかと思っておりますので、このところは非常に慎重に扱っていきたいなと思っております。

おっしゃるとおり、面積によって足りている、足りていないというふうに考えるのは、確かに安易だなというところはあるかと思っております。実際に、スポーツをする施設で、仮に50㎡ぐらいあったとしても、その部屋は1回ずつしか使えないですとか、そこは区切れないですとか、時間ごとに使えないとか、いろんな要因があるのかなと思っておりますので、その辺りのところもしっかり整理した上で、実際に適した面積、面積という言い方は避けたいなと思うのですが、適した規模というか、ニーズに対する規模ですとか、必要とされるものというものを整理していくことが必要なのだと思います。貴重な御意見をありがとうございます。

【李会長】

他の委員、いかがでしょうか。
朴委員、お願いします。

【朴委員】

大変分かりやすい機能分析の進め方で、なるほどと思います。

幾つか気になる点は、まず利用状況の調査というようなものが多分数を指標にされているのだと思うのですが、大変だと思いますが、時間分布でどういう人間の構成で、どのぐらいの人たちが来ているのかということ。平日と週末でどう違うかぐらいのデータがあると、すごく分かりやすいだろうなみたいな感覚が一つ。

それが、例えば、こども文化センターと老人いこいの家では当然違うだろうと思えます。当たり前ですよ、対象が違うのだから。こども文化センターに高齢者が朝から3時間も4時間も来ているだろうということは考えにくい反面、逆に老人いこいの家にお母さんや乳幼児が朝2時間、午後2時間みたいなそういうのも少ないだろう。当たり前のことだと思います。

なので、そこは、機能という感覚の下から考えると、利用者が逆に先に限定されているような。事前説明のときにも少し言ったのですが、要はこども文化センターという名前、あるいは、老人いこいの家みたいな形が、常に利用者を限定して機能を阻害しているわけです。持っている機能は同じような機能があるはずだけど、利用者を限定して

いるから、機能は時間とか、いろんな意味での制約があるため、もとより利用者がそういう形で集まることはないだろうというような形になる。

それを、シャッフルしていくというのが、機能を前提とした施設の考え方にいきつくのだと思うのですが、やはりある意味でビックデータみたいなものが必要で、それを重ね合わせると、うまくマッチするから、同じような機能で名前が似たようなA、Bがあって、近いところへどうぞみたいな形がうまく使える。

一つに集約できるかもしれないし、もっと小さく分散できるかもしれないというふうな議論にいければ、最終的にすごく格好いいですけども、多分そこまで行くのには相当な時間と相当なデータ、いろんな形のことを積み重ねる必要があるということには理解しているが、もう一歩進んで機能を、もう一つだけ、例えば会議室の使い方を、先ほどラウンジみたいな形で使うのは大変いいなと思います。

そののところをどういうふうにすればいいのか、ちょっと私は分からないのですが、最終的にこども文化センターというように名前を変えるのも一つの手なのかなと。センターというか、施設が常に機能ではなくて、ユーザーを設定している感覚がやっぱりあるのですね。機能で分割するのは、当たり前のような感じになっていくのだろうと、それをもっと啓蒙してくれれば、多分もっとやりやすくなるのかなという感じを受けました。

以上です。

【李会長】

ありがとうございます。事務局、いかがでしょうか。

【事務局】

事前説明の際にも、また他の委員さんやワークショップの参加者の方からもいただきましたが、やはり施設名がこども文化センターですとか、老人いこいの家といった、このネーミングのところから、いろいろな制約というか、バイアスがかかってしまっているというところが多いのかなと思います。やはり、これまで対象者別に施設整備をしてきたという結果もあるのかなと思うところです。

今回、資産マネジメント第3期実施方針でも、機能重視の考え方というところをうたっておりますので、当然機能の整理をすることによって、整備をしていくことになりませんが、その際には、建物名称のところをどうするかですとかの検討というものも当然必要になってくるのかなと思っておりますので、いただいた意見をもとに、今後検討させていただければと思っております。ありがとうございます。

【李会長】

他の委員は、いかがでしょうか。

山口委員、どうぞ。

【山口委員】

スポーツと会議室についてですけれども、アンケートを取るときなど、実際にどう使

われているのかというのがいろんな調べ方があって、予約が取りにくいのか、取りにくいのかというのを加えていただくと、面積に加えて補完的な、要するに利用時間が何で取りにくいのかとか、分析するための足がかりになるのかなというふうに思います。

もし、こども文化センターのこの割合が需要50%で供給20%だけれども、予約が取りにくいかという、実は予約は大体取れますということであれば、足りているという判断はできなくはないのかなというふうに感じました。

あとは、他の委員がおっしゃられていたので、以上です。

【李会長】

ありがとうございます。事務局のほう、今の意見について何かコメントはありますか。

【事務局】

なぜ希望が多いのに対して満たしていないのかというところにつきましては、やはり予約が取りやすい、取りにくいですとか、いろいろなその補完的な情報というものもあるかなと思いますので、分析を進める上では、今ある状況、情報というものをやはりそろえた上で分析する必要があるのではないかと強く感じました。ありがとうございます。

【李会長】

村尾委員、どうぞ。

【村尾委員】

分析対象は、こども文化センターと老人いこいの家と書いてあるので、足りない部分を補完し合うという理解での質問になるのですが、事前説明で、こども文化センターの何か一室を空けて、そこに高齢者の方が使っていていいですよと、その逆とかをやっても、結局来ないのではないのかというふうに意見しました。対象者を限定しているような、その機能性とか名称も検討していきたいというふうに事務局のほうから回答を得たのですが、ただ、こども文化センターも老人いこいの家も、年齢制限があると思うのですよ。これは、こうやって機能性とかを広げていくと、その年齢制限も撤廃していくという考え方でよいですか。

【事務局】

老人いこいの家も、こども文化センターも、それぞれ国が求める国民に対するサービスというところの施設として成り立っておりまして、市でも管轄している局が異なり、国の制度も異なるような、全く別々の施設という位置づけになっております。国のほうからもともと高齢者60歳以上の方が利用できるような施設ですとか、子供の場合ですと18歳未満の方が利用できる施設というようなところで、こういった目的を果たすための施設というところで、もともと整備されているようなところがあります。

ただ、だからといって全て一つの施設でしなければいけないという、そういった考え方から最低限必要な設備、サービスを確保できていれば、これまでと同じような形でサービスを提供できるという考え方もあります。なので、今までの考え方を変えていくと

いう必要があるのではないかと考えております。

当然国の事業として行っているというところもありますが、市だけではなくて、場合によっては、こういった施設の場合には、これまでどおり子供の健全育成のサービスを提供する施設だということで、国に対してもちゃんと言えるのかどうかといった、そういった整理も実は必要なのではないかと考えております。

【村尾委員】

ありがとうございます。

【事務局】

補足説明しますが、今、委員がおっしゃるとおりで、今説明もしたんですけど、もとも目的を持った施設ということで、それぞれ施設の設置の条例、国の動きに合わせて市のほうで施設の設置条例というのを設けて、こども文化センターであれば18歳未満とか、青少年育成のためという目的に沿って、年齢制限があるような施設であったり、老人いこいの家についても、そういう形で目的に沿って運営しているというのが、これまでの施設の整備と運営の仕方、少しずつ人口動態とかも今後変わっていく中で、我々の取組というのは、その辺の使い方を少しずつ変えていこうというところになっていきます。

ただ、最終的に全部条例をきれいに变えて、全てが複合施設になるかというところまでいくのに、まだかなり時間がかかるというのと、やはり全ての建物がそうあるべきかというのは、今ちょっと説明もしたとおり、場所によって、こども文化センターが継続で必要だということも出てくるでしょうし、一つ一つ使い方とか、空いている状況を見ながらやっていくという取組なのではないかと考えています。

例えば、今、こども文化センターなり、老人いこいの家というのは、名称はそのままで目的の条例も全く変えてはいないんですけど、その運営の仕方、例えばこども文化センターであれば、大人の方の、例えば町内会の会合ですとか、団体の会議ですとか、そういったところをこども文化センターの勉強部屋を使えるとか、老人いこいの家も夜間の開放事業という試行的な取組とか、そういったことを今やり始めてきたというところなので、その形とか条例というのはちょっとまだきれいに整っていないんですけど、少しずつ使い方を変えていく、広げていくという取組からまずはしっかりやっていくという、今はちょっとそんな段階というところなんです。

以上です。

【李会長】

今、施設の機能分析の進め方について、委員の皆さんからすごく重要な内容について意見を交わしてくださったのですが、施設の名称を変える問題は、国全体に関わる問題ですので、委員の皆さんの方々の意見が絶対的に正しいと思うのですね。今後、徐々に解決すべきところの部分じゃないかなというふうに思います。

あと、この施設利用状況調査で、ニーズを把握して、それを建物の面積の割合でどうするかということは、やっぱり伊藤委員の御意見のように、そうじゃない可能性が高い

わけですね。

ですので、今現在のやり方だとすると、Aという機能で予約しようと、他の会場を予約しようとしたのだけど、そこに空きがあれば予約する。空きがなければ諦めるか、他のところに行くかなんですね。

ですので、倉斗委員のコメントにもありましたけど、今現在は、公共施設は午前、午後、夕方、大体3等分して予約をするという形じゃなくて、それをもうちょっと自由に時間帯を設定できるような形にして、その様子を見るような形が解決の一つではないかと思います。例えば、一年中ダンスができる部屋を、最大限使えるコマ数があるわけですよ。そのコマ数の100%全部を使うことはほとんどできないですね。1日3等分予約できる中で、ある時間帯又はある曜日に予約が集中することがあるわけですね。そういうことがあれば、その利用時間設定をもう少し細かくすることで解決できる話では無いかと思いますので、それを是非活用してほしいことが私の意見ですね。

あと、先ほど、稲生委員の意見で、非常に重要な話、この施設分析の進め方で欠けているすごく大きなところをおっしゃっていたのですが、これは、今実際に使っている方々に対する調査ですので、使っていない方々に対しどう調査するか、それが、私たちのすごく大事な部分ですから、それについての調査方法として、先ほど無作為抽出のアンケートの話も出たのですが、その効果は期待できない可能性が高いです。

前日も申し上げたように、このワークショップのときも、先ほど10代の方がそこに参加してくれた、それがすごく大きなことで、まさに10代の人々をターゲットにしたアンケート調査をしてほしいんですよ。前回おっしゃっていたように、10代の子たちがたくさん使えるように、完全にそ若者をターゲットにして調査して欲しいです。

だから、川崎市の小、中、高校、そこの生徒たち、公立学校の子たちに直接アンケート調査を取って、その子たちがこうすると使うよということを取って、それが反映できるような形にすると、一番目に見える成果が出るのではないかなというふうに思います。

今やっているのは、モデル事業ですよ。モデル地域で、軸の施設をどういうふう to 実現するかということですので、これが全部じゃなくてスタートですので、必ず成功させることがすごく重要なポイントだと思います。成功しないと、モデル事業でやっていて、ああいうやり方だったら、うまくいかなかったということになると、結構その後が大変ですので、必ず、成功させるためには、やっぱり10代の若い子たちが、ああ、よくなったな、やっぱりうちの地域の象徴になる地区施設になったなということ、思わせるようなプランにして欲しいと思っています。

そうするためには、ターゲットを10代に絞って、そこだけに調査をして、その子たちがたくさん使えるような、そういうことで今回のモデル地域のプランを進めていけたらいいんじゃないかなというふうに思います。

以上です。

他の委員の方、意見はありますか。

では、すみません。事務局の方、私の意見についてコメントはありますか。

【事務局】

事前の説明でも少しお話が出ていたのですが、10代の方向けのアンケートについて

は、今、具体的にこちらで何かというところは、今はまだないんですが、教育委員会で
すとか、こども未来局のほうで、子供の居場所というテーマでアンケートについての取
組というのを進めているところがございますので、その辺りの情報を共有できる段階で、
今後しっかりこの委員会の中でも共有できればなと思っておりますので、そういった施
設目線というよりも、まず子供が、小・中という年代の中で、どういうところに居場所
というか、活動場所あるいはそれを求めているのか、求めていないのかという、そうい
う取組ですので、完全に施設目線ということでもないんですけど、ニーズ把握という意
味で共通する部分があるのではないかと思いますので、そういったまず情報共有をしっ
かりやっていきたいと思えます。
以上です。

【李会長】

ありがとうございます。よろしく申し上げます。

他の委員の方、大丈夫ですか。はい、分かりました。

では、今日予定していた議題及び報告は以上となります。全体について、何か御意見と
かはございますでしょうか。

【朴委員】

一つだけいいですか。

【李会長】

朴委員、どうぞ。

【朴委員】

もし、可能かどうか全然分からないので、勝手に言いますが。もし可能であれば、
中学校とか高校で、ワークショップでやられたゲームをやらせてみたらいかがですかね。

【事務局】

ぜひ。

【朴委員】

あれは、1時間こまを取ってやるには、すごくいいゲームだと感じました。可能性だ
け探ってみてください。

【事務局】

ありがとうございます。

【李会長】

それでは、これをもって本日の委員会は全て終了としますので、事務局のほうに進行

をお返ししたいと思います。

事務局よろしく申し上げます。

【事務局】

長時間にわたり、御審議いただきまして、ありがとうございました。

1点だけこちらから事務連絡でございますが、次第の一番下にも書かせていただきましたが、先ほど、白書の分析の参考資料2-1と2-2については、まだ作成中、検討中の段階が多々ございますので、今回は、現在の進捗報告というところで説明させていただきましたが、会議の資料としましては、今回は非公表とさせていただきたいと存じますので、よろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして、令和5年度第2回川崎市公共施設マネジメント推進委員会を終了いたします。

なお、次回の第3回委員会につきましては、3月頃に開催させていただくこととしておりまして、内容としましては、来年度、翌年度の取組のスケジュールを基に検討の進め方などを御説明したいと思いますので、よろしく願いいたします。

また、第3回委員会の開催に向けましては、適宜、オンライン等で事前に御説明する機会を、また日程調整をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、会議はこちらで終了とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。

— 了 —